

Information_5

狂犬病のおはなし

狂犬病は犬だけではなく、全ての哺乳類に感染します。死に至る恐ろしい病気なので、年1回の予防接種が法律で義務付けられています。

感染経路

感染した動物に咬まれた傷から、唾液に含まれるウイルスが侵入します。その他、傷口や目・唇など粘膜を舐められた場合も感染の危険性が高いです。

通常、人から人へは感染しません。

(角膜移植や、臓器移植による移植患者への感染例があります)



症状

およそ2週間の潜伏期間(=ウイルスが脳神経に到達するまでの期間)を経た後に発症します。

体が小さい子どもほど、噛まれた傷から脳までの距離が短いため、発症が早くなります。

前駆期 発熱、食欲不振、咬傷部位の痛みやかゆみ・熱感



狂躁期 不安感、恐水及び恐風症状、興奮性、麻痺、幻覚、精神錯乱などの神経症状

麻痺期 全身の麻痺症状による歩行不能、あごの筋肉の麻痺による嚥下困難、舌をだらりと出したままよだれを垂らす、昏睡状態になり呼吸障害により死亡

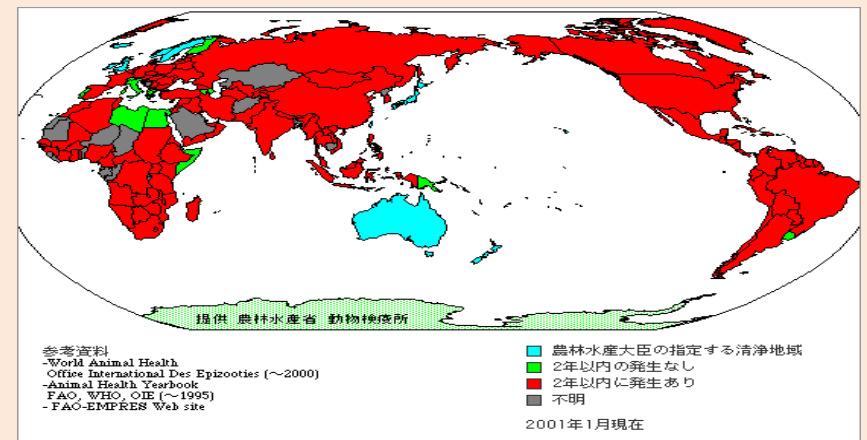


日本国内の狂犬病

狂犬病予防法により、犬の登録・予防注射・野良犬等の抑留が徹底された結果、日本国内では60年近く狂犬病は発生していません。

世界の発生状況

日本の周辺国を含む世界のほとんどの地域で現在も発生しています。2006年にはフィリピンを旅行中に犬に噛まれた日本人が、帰国後に発症して亡くなっています。



スタッフより

今の日本が狂犬病清浄国でいられるのは予防接種が浸透しているおかげです。70%以上の犬が予防接種を受けていれば、万が一国内に狂犬病が侵入してきても広がりを防ぐことができるといわれています。

未来を担う子どもたちのためにも、大人がしっかり役割を果たしていきましょう!

